

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

NO. 364

# 学力研の広場

2025. 7. 6

学 力 研 発 行

常任委員長 岸 本 ひ と み

ペイペイ銀行うぐいす支店 普:3607141

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

8月2日に大阪で行われる学力研の全国フォーラムに、『ケーキの切れない非行少年たち』などの著作で知られる児童精神科医の宮口幸治先生をお招きして、記念講演をしていただきます。

その宮口先生の近著の一つに『逆境に克つ力：親ガチャを乗り越える哲学』（神島裕子氏との共著）があります。この本の紹介文に「全ての人が幸せを追求できる社会のあり方を考えながら、逆境を乗り越えるための心の持ち方、人生を切り開く力のつけ方を、哲学・精神医学・心理学の観点から具体的に提唱していきます。」と書かれています。（内容については書籍紹介記事をお読みください）

日々の学校生活を送る中で、子どもたちはそれぞれに、様々な「逆境」に直面していると思われるかもしれません。けれど、どの子も最初からそんな逆境に負けずに乗り越えていくたくましさをもっているわけではありません。また、教師の手助け無しには、逆境に打ち克って乗り越えていく力は身につかない子どもも少なからず存在するはずです。私たちが子どもたちと共に過ごす学校で、教室で、彼らが逆境に負けない、逆境に克つ力をどうしたら育てることができるのか…考えてみました。（堀井）

## CONTENTS

### ◇特集 教室で育てる『逆境に克つ力』◇

逆境に克つ力をつける（学校）	根無信行	2
学校ならではの「小さな逆境」を生かして	堀井克也	4
『逆境に克つ力』を身に付けるには難しい時代に大切なこと	鈴木基久	6
寄り添う言葉がけで乗り越える	加藤英介	8

### ◇連載◇

「どの子も伸ばす」を本気で考える 81 「意欲格差」に負けない！公立小学校へ	岡本美穂	10
考える力をつけるための授業の組み立て方⑩ワンテンポ置くことで考えさせる	荒井賢一	12

学力研 ICT教育を考える学習会 報告	李詩愛	17
『逆境に克つ力』親ガチャを乗り越える哲学 紹介	金井敬之	18
地域サークル 春日井学力研	加藤英介	20

常任委員長・事務局だより		21
学力研カレンダー		22

# 逆境に克つ力をつける (学校)

大阪 根無 信行

## はじめに

逆境に克つ、をテーマにいただいたので、「逆境に克つ力 親ガチャを乗り越える哲学」宮口幸治／神島裕子(小学館)を読み、学校でできることを考えてみました。宮口氏の著書「ケーキの切れない非行少年」にあるような、逆境の中で育つた子どもが、非行や犯罪に走ってしまう、そこまでの深刻な事象ではなくとも、学校という小社会の集団の中で、本来の社会で困らずに生きていくための「力」を家庭でつけてもらえないまま入学してくる子どもたちも少なくはなく、そのような子どもたちを含めて学校はどうすることが良いのか、ということを考えて浮かべながら書かせていただきます。

## 一、メタ認知を育む

集団生活の中で、いろんな他者からのフィードバックがあることが、子どもが自分自身を客観的に知り、何を望んで何が必要かを見つめるために必要だと言います。また、集団社

会で過ごすしていくと言うことは、折り合いをつけるということができるようになるということです。学校という環境は、子どもがたくさんの他者と関わりを持つ最初の社会です。家庭の中で親子2人きりであるということは、自身の行動への他者からのフィードバックのパターンが少なくなります。教室で、教師やクラスメイトが自分の周囲にいて、学校の職員、地域の方に見守られながら生活をしている中に、フィードバックの多様性が生まれます。

## 二、学習にかかわって

学力も適切に評価して、つまずきを見つけ、手立てを提案してあげることができれば、子どもたちは安心して課題に取り組んだり、取り組み続けたりできるのだと思います。寄り添って、得意なところを見つけ、苦手なところを伝え、頑張る気持ちを支えてあげるといふ教員の仕事は、弱点補習課題の提案だけをするAIにはできないことだと思えます。

近年、学校は校務支援システムの導入で、

成績入力や通知表印刷をソフトで扱うようになりました。さらに観点別評価に「主体的に学びに向かう態度」などを数値入力する形も決まってきました。たとえば、ここでは、宿題に出したタブレットの課題が未提出ならば、主体的態度が1、発言をしなければ思考が1、という風に、機械的に評価をする教員も増えてきました。学年で基準を揃えていけば、保護者にも説明がつくから、と、なかなかその評価方法の違和感があるにもかかわらず、校内での議論にはなりません。心配なのは、授業の単元をやり終えていけばいい、とか、成績取らなアカンからテストしてしまおう、とか、提出してないからさんねんでした、という履修主義というか自己責任論を感じてしまうところにあります。これでは、一見正しいフィードバックを子どもたちに返していることになっているようで、事後のフォローが欠けているように思えます。

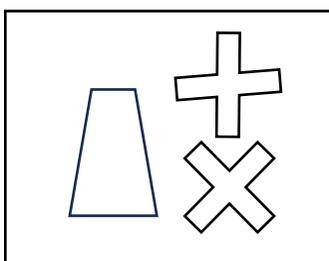
「逆境に克つ力」の四三ページから、「未来を見据える力と忍耐力」について書かれました。学校の学習の中では、未来と言うほど遠いものでなくても、学習の目的やめあて、学習計画などが伝わったほうが、目の前の課

題だけをこなす学習より、質の高いものになると言えるでしょう。目の前の読み書き計算、基礎基本の取り組みは、ある程度の忍耐も必要です。その忍耐は、未来を思い描くことで保たれ、安心できる心地よい環境で、育まれるようです。逆境に置かれていと言われる子は、今の学習の先にある目標が見通せていないか、たどり着く前にくじけてしまっている可能性があります。努力してもできなかったり失敗したりしたことを叱られるだけの環境では、安心して続けられません。そういった環境に置かれ続けていることを学習の逆境にあるというならば、これまでのように読み書き計算の力をきたえ、子どもたちに伸びを実感させて、今の自分が持っている力を活かした範囲で学習をすすめる事を楽しく感じられるような環境を作ってやりたいと思っています。

### 三、学校でできること

では学校でどんなことができるのかと言われても、新しい斬新な提案はできません。書籍の中では、「コグトレ」に取り組み、認知機能を高めることが子どもたちに良い効果をも

たらしたことが記されていました。私も、「コグトレ」の研修に参加したことがあります。そこで、このような絵を見て覚えたあとに書き出すというトレーニングが紹介されていました。(図)



覚えて書く、というためには、「写真」のようにならぬ全体を覚えて人々や、部分にわけて並べ直す人など、様々だそうです。その中でも、写真のように一度に覚えるのはたいへん人には難しく、トレーニングでは伸びにくいけれども、例えば「太めの十(たす)」と×(かける)の横に跳び箱」というイメージの言葉に置き換えて覚えることは有効だと話されていました。

この活動を聞いて、これなら学力研で以前から久保先生が提唱されていた「つづ書き漢字」の取り組みとつながるのではと思いました。漢字を学級で習うとき、「ツかいて、ワかいて…」と漢字を知っている部分に分け、つづやきながら覚える手立てです。これまでの先生方は、

実践をとおして、子どもたちの認知機能を高めながら学習を進めてこられたのではないのでしょうか。また、マス計算をして、上や横の数字から導き出される数をマスに埋めていく活動や、前にある黒板を見て、文節で覚えて視写する取り組みも、目の動きや短期記憶など、子どもたちに必要な認知機能の基礎を、鍛えてきたのではないのでしょうか。

書籍の中には、さらに、「想像力」のことについてもふれられていました。「未来を見据える力」にもつながると思います。

宮口幸治先生の講演を聞かせていただき、学力実践の裏付けがされることがあると思います。

8月2日、夏のフォーラムでお話が聞けるのを、楽しみにしています。

## 学校ならではの「小さな逆境」を生かして

春日井学力研 堀井 克也

◎よく見ると、学校生活は「逆境」だらけ

「逆境」を辞書で調べると、「思うようにならない境遇。不運な境遇」とあります。考えてみると、毎日の生活の中で、自分の思うようになることが少ない気がします。不運だなあと感じることを探し始めたら、きりがありません。最近では自分のクラスの子どものたちのことより、自分自身の子どもの教育のことで悩むことが多いのですが、これもまた、思うようにならない「逆境」だなあと、しみじみ思います。

子どもたちの学校生活も、よく見てみると彼らにとっては逆境ばかりなのかもしれません。今担任している子どもたちの一人Kさんは、「え〜次の時間算数じゃん、いやだなあ〜」とか、給食の時間には「私これきらい〜！」などと、頻繁にマイナスイヤスを口にします。彼女のようには出さずとも、心の中で「いやだなあ」「逃げたいな

あ」と感じている子は、きっとたくさんいると思います。こうした「小さな逆境」と、子どもたちは日々向き合っているのだと思うと、毎日毎日休まず登校する彼らはえらいなあ…と思わずにはおれません。

と同時に、これはもしかすると彼らが逆境に克つ力を身に付けていく機会として捉えることができるのではないか、と思うのです。学校という閉じた場、限定された環境の中では失敗は許容されます。挑戦は価値づけられます。ですから、学校でこそ育つ力があるはずなのです。家庭環境の格差を乗り越えるチャンスがあると思うのです。

◎小さな逆境こそ成長のチャンス  
教師の側にこうした認識があると、子どもへの対応、言葉がけは変わってきます。

この一学期、算数の時間のはじめに百マスかけ算、引き算、わり算に取り組んできました。ある程度回数を重ねていくと、な

かなか記録が伸びない時期が必ずやってきます。ある日、Sさんが、帰りの会に毎日書いている「成長ノート」に、「百マスの記録が今日も伸びませんでした。おとなりさんはすぐく伸びたのに。くやしかったです。」と書いていました。がんばっているのに結果が出ない…これぞ、小さな逆境です。早速次の日彼女を呼んで話をしました。

くやしと思うのはあなたが一生懸命取り組んでいる証だと思うよ、と努力を認めたと、どうしたらいいと思うか尋ねました。すると「もっとがんばる。」と言うので、それは具体的には何をどうすることなのか聞きました。すると少し考えてから「プリントを持って帰って家でやってみる。」と答えました。算数の時間以外にも練習している子はいましたが、彼女にとっては初めてのことでした。私は大いに喜んだ上で、がむしゃらに練習するよりも、自分の苦手なところを集中的に練習した方が記録は伸びるとアドバイスをし、彼女のよくつまずいている箇所を伝えました。次の日の朝、家で練習してきたプリントを見せに来たSさん、その日の算数の時間に一気にタイムが

縮んで、とても喜んでいました。

私は彼女の努力と成長を他のみんなへ紹介した上で、うまくいかない、思い通りにならない状況こそ、成長のチャンスであるということをお伝えしました。しんどいなあ、苦しいなあと思つたら、「**ここだなあ**」と思おう…ここを乗り切つたら大きく成長できると考えよう、という話をしました。そしてその後、「**ここだなあ**」という言葉を示物にして貼りだしておきました。

### ◎みんなの力で乗り越えよう

音楽の授業は専科の先生が行っているのですが、私はいつも子どもたちと一緒に音楽室へ行き、子どもたちの様子を見ながら仕事をしています。五月のある日、歌のテストがありました。教室の隅で、一人ずつ曲の一節を歌うものです。様子を見てみると、周りの目が気になるのか声が出ていない子が多いのです。無理ありません…。高学年になると周りを気にして歌わなくなる子も増えるものです。(音楽の授業態度はクラスのバロメーターとなる気がします)その日の成長ノートには、「**大きな声で歌うことができなかった**」「**次はもっと大きな声**

**で歌いたい**」という言葉があふれました。

私は以前久保先生の『「1か月集中実践」で子どもを変える！久保齋の技 BEST7』を読んで以来、歌声の指導に力を入れてきました。早速「安心して歌が歌えるクラスはね、いいクラスなんだよ」と伝えて、隙間の時間を駆使して歌声の指導を始めました。下校の準備をするタイミングで音楽を流してみんなで歌いながらランドセルに荷物を詰めたりしましたし、朝の会にペアで向かい合つて歌つたりもしました。

コツコツとみんなが歌う経験を積み重ねていった結果、少しずつですが大きな声で歌える子が増えていきました。楽しそうに歌う子が大多数になっていくと、歌わない方が不自然になり、結局みんなが歌えるようになっていきました。2回目の歌のテストには、多くの子どもたちが前向きな態度で挑んでいました(まだ、全員ではないですが…)。これは、クラスみんなを取り組んだからこそ達成できたことだと思います。

### ◎ふり返りで認知の変化を促す

二つの例を挙げましたが、どちらの場合も子どもたちが変容した後で、ふり返りを

行うことがカギです。ふり返って自分の成長を実感するとともに、実は「**小さな逆境**」に直面した時の行動がその成長の起点になっていたことに気付けるように促していくのです。この意識が本身に身についたら、子どもたちはもしかすると「**小さな逆境**」をむしろ歓迎するようになるのではないかと期待があります。「**いやだなあ**。」と感じるのは以前と変わらなくても、その事態をどう受け止めるかは自分で選べるのだという考え方ができたら…素敵です。

ここに書かせていただいたことは、あくまで私のクラスで起きたことの一部であり、それがそのまま読者の先生方に援用可能なことだとは思いません。けれど、繰り返しになります、学校という限定された環境でこそ、「**小さな逆境**」を(時には教師や仲間を借りて)乗り越えることができるのではないかと…そして、そうしてこそ育つ力があるのではないかと、思うのです。

担任するのは一年間ですが、一生役立つ宝物を子どもたちに贈ることができるかもしれないと思うと、教師の仕事ってやりがいがあるなあと感じずにおれません。

## 『逆境に克つ力』を身に付けるには難しい時代に大切なこと

鈴木基久

「逆境」の意味は「不運で思うようにならない境遇。自分の思い通りにコトが運ばない状況」とあった。

今回のテーマは「教室で育てる『逆境に克つ力』」のだが、私はこのテーマを見てすぐに『逆境に克つ力』が教室で育てられるのだろうか？と思った。その理由を述べていきたい。

世の中がどんどん便利になり、現在の私たちは自分の思い通りになることに困まれて生活している。電車やバスは定時運行し、ネットショッピングした商品は自宅に届けられる。多くのことがスマートフォンで簡単に済ませられるようになり、我慢をしたり、仕方ないよねとあきらめたりすることが少なくなっている。

小学生の生活でも、様々なものが改良されて楽に扱えるようになって

いる。例えば、昔の習字セットは硯石が重くて持ち運びが大変だったが、今はプラスチック製なのでずいぶん軽くなっている。理科の教材も簡単に組み立てられるように改良され、うまく作れなくて困るということが少なくなってきた。

人々の努力によって商品やサービスが改善されることは、社会の発展や進歩であるからよいことである。でも、見方を変えると、楽に思い通りにできることにほとんど困まれる生活になってきたとも言える。

私の曾祖父の話をお父さんから聞いた。今から70年ほど前の話である。自宅から50キロメートル離れた孫の家まで、畑で穫れた野菜をリアカーに積んで歩いて運んできた。当時の道は舗装されておらずでこぼこだつ

たと思う。自家用車がないのでリアカー以外に方法がなかったのだと思うが、今の時代の人に同じことはできないだろう。つまり、思い通りにならないことをやりきる力は、不便なことが多かった昔の人のほうがはるかに優れていたのではないかと、私は思っている。

今でも思い通りにならないこととして、天気と自然災害がすぐに頭に浮かんだ。それ以外で思い通りにならないことと言えば、やはり進路（受験、就職）ではないだろうか。

私の住む地域の高校受験では、多くの中学生が公立高校を第一志望とし、私立は滑り止めで受験していた。しかし、公立高校受験は私学に比べて合格発表が遅いし、不合格になることも多い。思い通りの結果が得られないことに耐えられないせいか、昔より公立高校を受験せずに私立高校を第一志望とする受験生が増えているという話を聞く。これは、中学生だけでなく保護者の問題でもある。

兄弟のいる家庭で、兄の受験が大変だった保護者が、同じ思いをすることを避けたいと考えて私学受験を勧めるという話を聞いたことがある。

昨年度、大学生の娘の就職活動の様子を聞き、まさに「逆境に克つ力」が試されるのが就職活動なのだと実感した。内定がもらえるか分からない中で、長期間にわたって同時に複数の会社の就職活動を続けることは精神的にも肉体的にもかなり厳しいことだ。楽な道ばかり選択してきた大学生は就職活動を乗り切れるのだろうかと心配になってしまふ。

親も子どもも、社会全体も思い通りにならないことをできるだけ避けて、楽に良い結果を得ようとする状況で、学校だけが子どもに負荷の高いいことを無理にやらせることなどできないのではないか。だから『逆境に克つ力』を今の学校で育てられるはずがないと私は思ったのである。

宮口幸治・神島裕子著『逆境に克つ力』の第5章に「幸福になる力」

を高めるヒントが書かれている。

- 2・自分の人生は自分で切り開こう
- ③がまんする力をつける
- 3・社会で生きていくための知恵と知識を身に付けよう

- ① 基礎学力と認知機能を伸ばす
- ② 自分の「好き」を見つける

「がまんする力」は、非認知能力と言われるものの一つだと言える。認知能力は点数化できる力であり、例えば「言葉の力」は高ければ高いほどよい。しかし、非認知能力は高ければ高いほど良いわけではない。例えば「がまんする力」だけでは、我慢し続けて現状を変えることができず、ついには心が折れて病んでしまうかもしれない。それよりもコミュニケーションケーション力で他の人の助けを借りて問題を解決したり、無理なのでできないと断ったりする別の方法を取るのがよい。つまり非認知能力は、異なるさまざまな能力のバランスが大切なのだ。

「がまんする力」で気になることは、

最近「我慢しなくていいよ。困ったことがあつたらすぐに言つてね」というようなメッセージばかりが学校であふれていないかということだからこそ、自分を律して我慢することの大切さを子どもたちや保護者にも伝えていく必要があると思ふ。

「基礎学力と認知機能を伸ばす」は、学力研の目指すものそのものである。宮口先生の著書を読んで、私たちが日々目指して実践している基礎学力と認知機能を伸ばすことが、充実した人生を送るために必要なことだと確認できた。

「自分の『好き』を見つめる」は、自主学習ノートや「はがき新聞」に自分の好きなことをまとめることを子どもたちに推奨し取り組んでいる。テレビ番組の「博士ちゃん」を見れば、その大切さがよく分かると思ふ。

8月2日の全国フォーラムでは、宮口先生から直接お話を伺うことができるので、多くの皆さんに是非参加していただきたいと思つている。

## 寄り添う言葉がけで乗り越える

加藤 英介

はじめに

一学期も残すところあと一か月。教室の子どもたちはどんなことができるようになったでしょうか。今年度は、学級担任ではなく総合専科として、3年〜6年生全クラスの中で、教室に入っています。4月、授業をする中で、教室に入れない子や話を聞くことが難しい子、学校に足が向かない子などに出会いました。今よりも少しだけ前を向けるようにするために、私が取り組んできたことや担任の先生方が取り組まれていることを紹介します。

教室にいたいけど…  
3年生の和人さんは、座って勉強することが苦手です。授業中は、ふらふらと立ち歩き、廊下や階段、運動場などへ気の向くままに出ていってしまいます。止めようとすれば大声でわめいたり泣いたりします。

落ち着くまでには二時間程度のクールダウンが必要です。和人さんに対して行ったことは、彼は何が好きで、どの場面なら話を聞いてくれるのかということを見極めることでした。和人さんは虫や昆虫、ゲームや家族のことなど自分の興味のあることについて話してくれられます。また、授業中は、疑問に思うことや気になったことについては発言をしてくれることもわかってきました。そこで、和人さんルールをつくることにしました。

- ① 授業中は座ってできることならよし
- ② 学年廊下までなら移動してよし
- ③ 一言先生に伝えてから行動

これらが守れない場合は、保護者に引き渡すことも事前に伝えました。ルールを設定した当初は、破った時点で連絡だったため、和人さん自身も癪癪を起こし、大声でわめき「いやだ」の一点張りでした。時間がたつにつれて、少しずつルールを守れる

ことが増えました。授業中も、タブレットで動画を見ながら過ごすことが多くなり、とりあえず席にすわって受けることができようになりました。総合の調べ学習の際には、地域の特産物である『赤しそ』を調べながら「赤しそは体にいい。栄養がたっぷりなんだよ」とネットのサイトを見ながら自慢げに教えてくれました。思わず「すごいなあ。今日和人さんが調べてくれたおかげで、先生の知識も増えました。ありがとうございます。」とハイタッチしました。

先生ー先生ー！

教師や仲間の発言に対して、すぐに口を出してしまう洋平さんがいます。算数の場面では答えを先に言ってしまったり、やることがなくなると友達にちよっかいをかけてみたりとお調子者です。洋平さんに対しては「待つ」ということを徹底しました。

最初の授業では、チャイムが鳴っても騒がしかったため「静かになったら挨拶をします」と小さな声で伝え5分間待ちました。その後挨拶をして、「先生が、挨拶しなかった理由を頭で考えましょう」と聞くとすぐ

に答えが返ってきたため「今は話す時間ですか。考える時間ですか。それとも勝手に話す時間？」と問い返し考えさせました。静まり返った雰囲気の中「がちやがちやしているときと誰一人話していないときどちらが真剣に考えることができますか。これを中心するといえます。静かな雰囲気つていいよね」と伝え、授業を始めました。

授業後、プリントを見ると、洋平さんは課題に手を付けず白紙の状態でした。その理由を聞くと「わからなかった」と素直に答えてくれました。そこで「わからなくて当たり前だよ。でもやりたい気持ちはあったんだよ。そのときは遠慮なく聞いていいんだよ。そのために、先生がいるんだから。今度は一緒に書いてみませんか」と伝えました。次の時間、洋平さんは「先生、一緒にやって」と自分の机ではなく教卓と一緒に考えながら、最後まで報告文を書き上げることができました。

めんどくさい…

学校に行くことに抵抗がある信雄さんには、4月に保護者と連携を取ることにしま

した。保護者の願いや年間の指導方針、一日の流れなどをすり合わせました。「学校に行つてほしい」ということが一番の願いでした。本人も「行かなきゃとは思っているけど行けない」と本音で答えてくれました。そこで「無理しなくてもいいからね。自分のペースを大事にして進めていけばいいよ。しんどくなったらいつでも休んでね」と伝えました。また、保護者の方には「まず学校に来ることを目標にするので、宿題や勉強のことは一旦置いておいてもよろしいでしょうか」と伝えスタートしました。信雄さんも「がんばりたい」という気持ちはあったため、遅刻しながらも登校をしてくれるようになりました。もちろん、授業はぼーっとしている毎日でした。

あるとき「学校の勉強で頑張りたいことありますか。例えば計算とか漢字とか…」と聞くと「まあ漢字かな」と答えてくれました。「どれくらい点数取りたいの?」と聞くと「60点ぐらい」と伝えてくれたため「60点取るためにはどうしたらいいと思う?」と聞くと「勉強する」と答えてくれたので、特別プリントを渡しました。特別

プリントとは漢字五十問テストに出る問題を十問テストにしたものです。「これをやれば達成できるよ。難しいけど、やれたらすごいことだよ。」と伝え、一週間休み時間に一緒に勉強しました。その結果、見事6点を取ることができました。テストを返した時にはいつも以上の笑顔でうれしそうに持って帰っていました。それ以降、勉強に対して、少し前向きになり、取り組めることが多くなりました。

おわりに

「困った子は困っている子」という言葉の通り、どの子も成長したい・変わりたいとは思っているが、やり方が分からないことが多いのではないかと思っています。それは子どもだけでなく保護者も同じです。その子がそうなってしまう理由や原因を見つれたり解決の糸口を見つれたりして、試行錯誤しながら繰り返ししていくことが逆境に克つ唯一の近道なのかもしれません。それらを俯瞰して、見ることができるのは教師です。

## 「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

### 教材の特徴 大造じいさんとがん

本教材は、狩人である大造じいさんと、がんの頭領である残雪との四年間にわたる知恵比べを通して、残雪の頭領としての姿に感嘆、感動することにより、大造じいさんの残雪に対する心情が、変化していく様子が描かれた物語である。初めは、狩人としての知恵と経験がある大造じいさんが「二羽のがんも手に入れることができなくなった」ことから、残雪をいまいましく思っているながらも「たかが鳥」だと考えていた。しかし、最後には「がんの英雄」へと残雪を認めるまでに見方を変えていく。知恵と勇敢さをもって、仲間を守ろうとする残雪。生きるための激しい戦いを通して、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かしていく大造じいさんの姿が、緊迫した雰囲気の中でいきいきと描かれている。残雪の行動を本能と知りながら、本能的な行動と決めつけず、感動をもって接する大造じいさんの素晴らしさが、読み手に大きな感動を与えてくれる作品となっている。

この単元では、毎回「この場面の大造じい

さんはどうですか？」と発問していたので、今回もペアで音読を行いながら、子どもたちは線を引いたり、ノートにメモを取るなどして読み深めていく姿が見られた。その後、大造じいさんの変化について全体交流を行った。子どもたちは「銃を下ろす」ことに疑問を抱きながら話し合いを進めていくなかで、尊敬という言葉が出てきたので、黄色で目立つように書いた。そして、深める発問として、「手をのばすとは。」と聞くと、助ける、守る、混乱というキーワードが出てきたので板書した。読みの深さも大切なことではあるが、子どもにとっては「みんなといっしょに読み合えた！」「話し合えた！」「考えて書けた！」という喜びは、学習意欲につながるのだから、そういう気持ちも大切にしたいと考えている。

#### 短冊の意図

今回の板書では「大造じいさん」「残雪」「はやぶさ」と書かれた短冊を用意して、毎時間その短冊をいかした板書づくりを行うように

した。短冊の良さは、

- ① 何度も使える
- ② 貼ったり、はがしたりして何度も使うことが出来るのが良さである。
- ③ どこにでも動かせる

さっと簡単に動かすことができるので、どこに短冊を貼るべきか、子どもたちと考えることもある。みんなが板書をつくることを意図している。



## 教材の特徴 一つの花

この教材は、ゆみ子に対する両親の思いが、「二つだけ」というキーワードを軸に人物の行動として表現されている。「お父さん」が出征の日、「お母さん」は必死に「ゆみ子」をあやしている。笑顔のままで、ゆみ子とお母さんと別れたい。そんな気持ちが働き、とつさにとつた行動が「一輪のコスモス」をゆみこに渡すであった。つまり、「一つの花」である。この一つの花のおかげで、お父さんはゆみ子の喜ぶ姿、お母さんのほっとした笑顔が見られ、それが最後の家族の表情となったのだ。だから、「ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら…」と、普通なら家族の顔を見ながらとなるところが、「一つの花」を「見つめ」ながらと表現されたと解釈した。

### 単元を通してつきたい力

今回のこの単元でつきたい力は「題名と物語をつないで考えを持つ」とだ。そこで、初発の感想は、範読もせず「題名」だけを見て思ったことを書き、その後、範読を聞いて「題名」について思ったことを書くことにした。今回の授業のめあては、「一つの花をみつめながら行った父について考えよう。」である。そして、教材の核は、「お父さんは、それを見て

にっこり笑うと、何も言わずに汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている一つの花を見つめながら……。だと考えた。

### 立場を決める名前プレート

そこで、子どもたちから疑問として、「お別れかもしれない場面、顔を見ず一つの花を見つめながら変だと思いません。」と出た。それも見るではなく、「見つめる」というのも気になるということだったので、子どもの意見を聞いてみると、大きく3つの意見に分類できた。

**A** 泣いてしまう  
**B** 安心 **C** 最後のプレゼント

子どもたちはこの3つから自分の意見に近いものを選び根拠を本文から探した。



そして、板書に、名前プレートを一人ひとり貼るようになった。立場を決めることで、根拠を持つて子ども達は意見を伝え合うことができていた。また、**B**か**C**で悩んでいる子どもは、プレートを貼る場所にこだわっている姿も見られた。板書の前で悩みながら貼っている姿を見て、交流し合っている子どもたちもいた。

ICTでは表現できない、同じ場所で、同じ黒板を使っているからこそその良さだけと考える。黒板は教師だけでなく、子どもたちと一緒に創りあげるものというのが私の考えだ。

## 語彙を増やすための授業の組み立て方

### 刑法改正・拘禁刑へ

今年の六月一日、刑法の改正によって、従来の刑罰である懲役と禁錮が一本化され、拘禁刑と変わった。

そもそも懲役と禁錮では、どう違うのか。拘禁刑になると、どう変わるのか。そもそもなぜ改正されたのか。などを調べてみた。まず、懲役とは何か。

#### 刑法第12条2

懲役は、刑事施設に拘置して所定の作業を行わせる。

刑務作業（刑務所内において受刑者が行う作業）は次の4種類である。

①生産作業：物品を製作する作業、労務を供する作業。

②社会貢献作業：労務を提供する作業であつて、社会に貢献していることを受刑者が

実感することにより、その改善更生及び円滑な社会復帰に資すると刑事施設長が認めるもの。

③職業訓練：出所後の就労に役立つ免許や資格を所得させたり、職業に必要な知識や技能を習得させたりするための訓練。

④自営作業：炊事や洗濯など、受刑者の刑事施設内で生活するために必要な作業。

刑務作業は、原則として一日につき八時間を超えないことになっている。こう見ると、福利厚生がしっかりした職場にも見えてくる。

法を破り、罪を犯したのだから、もっと厳しい罰を与えるべきだ、という考え方もあるだろう。被害者の立場になれば、「ゆるせない、もっと厳罰を！」と声をあげたくなるかもしれない。

ただ、犯罪者も死刑や無期懲役以外では、社会に戻ってくる。その元…受刑者が再犯

しないように、更生をめざすことも、また必要なだろう。

次に、禁錮とは何か。

#### 刑法第13条2

禁錮は、刑事施設に拘置する。

懲役と違って、刑務作業が義務付けられていない。

ただし、受刑者が刑務作業を希望する場合、条件を満たしていれば、許可されるそうである。

どういった人が禁固刑になるかという点、交通事故などの過失犯や政治犯などがなるそう。禁固刑の場合、独居房で一日中、胡座か正座で過ごし、誰も会話をしない。それゆえ、多くの人が刑務作業を希望する。

しかし、それゆえか、その禁固刑も懲役刑と一本化され、拘禁刑となったのである。

#### 刑法第12条

2 拘禁刑は、刑事施設に拘置する。

3 拘禁刑に処せられた者には、改善更生を図るため、必要な作業を行わせ、又

は必要な指導を行うことができる。

これまでの懲役刑のように刑務作業が義務づけられているわけではなく、禁固刑のように刑務作業を希望できるわけでもない。

あくまで、刑事施設長が、受刑者が改善更生や円滑な社会復帰を図るために必要だと認められた場合に、矯正指導や刑務作業が行われるわけである。

要するに、犯罪を犯した罰として刑務作業が命じられるわけではなく、将来の犯罪を抑止するための指導として、刑務作業などが使われるわけだ。

まあ、そもそも、社会から隔離され、刑務所内で拘束され、多くの自由を奪われることが罰ともいえる。

刑務所に入って自由を失うのは耐えがたい。それが犯罪抑止になっているとも言える。

## 授業プラン・罪と罰

### 【板書】□と□

「□には、漢字を1文字ずつ入れます。

例えば、火と……水。

火を消すのに水を使い、水を火で温めるとお湯になります。

このように関係のある漢字2文字を選んで、□と□を作ってみましょう。」

五セット書けることに、一セット板書させていく。

板書が出そろった所で、発表。

- ①西と東…なの花や月は東に日は西に
- ②鼻と口…人間は鼻と口で呼吸する。
- ③明と暗…勝負の明暗を左右する場面
- ④犬と猫…犬は好き、猫はきらい。
- ⑤夏と冬…夏は暑いけど、冬は寒い。
- ⑥龍と虎…昔から龍と虎はおそれられている。
- ⑦猿と木…猿も木から落ちる。
- ⑧空と海…空と海の境目は水平線。
- ⑨無と有…無いか有るだったら、有るほうがいい。
- ⑩得と損…得もすれば損もする。
- ⑪草と花…草があつたら大体花もある。
- ⑫時と金…時は金なり。
- ⑬日と水…日と水は植物が育つんいはかかせないもの。
- ⑭南と北…南と北は真逆。

⑮上と下…上手な人と下手な人

⑯上と下…上と下に移動する。

⑰前と後…車の前と後でデザインがちがう。

⑱強と弱…弱肉強食

⑲生と死…人間は、生きるか死ぬかの選択がある。

⑳表と裏…表があれば裏もある。

### 【板書】罪と罰

「人の物を取つたり、人を傷ついたり、人を殺したりすることが罪となります。その罪に対して、罰金を受けたり、刑務所に入られたり、死刑になることを罰といいます。」

※どんな罪があるか、どんな罰があるかを子どもたちには聞かない。(ふざけた雰囲気になる可能性があるから。)

### 【板書】罪に対して罰は必要か？

「罪に対して罰は必要かと思う人？必要ないと思う人？」

必要だと思う人はその理由を、必要ないと思う人はその理由を書きましょう。」指名なしで発表させていく。

※必要か必要ないかの挙手人数はあえて数えない。

【罪に対して罰は必要】

- ①悪いことしたならそれに応じる罰も必要。そうしなければ、人はかんとんに命をうばうだろう。
  - ②悪いことをされた被害者がかわいそうだから。
  - ③罰がないと、反省せず、やっていいんだと思ってしまうから。
  - ④罰がないと、罪をおかす人がふえる。
  - ⑤罰を受けると、おそれてもうしなくなる。
  - ⑥罰を受けなければ絶対やめない。言葉でやめるならもとからしない。
  - ⑦罰がないと、もう一度罪をおかす可能性があるから。
  - ⑧被害を受けた人とつり合わないから。
  - ⑨罰がないと学習しないし、よくにまみれてしまうから。
  - ⑩罪をおかしたせいで苦しんだりした人がいるから。その罪をつぐなうためには、罰はあるから。
- 【罪に対して罰は必要とはいえない】
- ①学校で、暴言や暴力をしても、罰を受け

ないから。

- ②やってしまったことは、自分で反省すればいい。
- ③罰を受けても、またやってしまう。

罪に対して罰が必要な理由の発表の後、山崎聡一郎『子ども六法』(2019,8 文堂)から、刑法第9条「刑の種類」と第12条「懲役」と第13条「禁錮」を紹介する。

刑の種類：死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留  
科料

懲役：刑務所に入れ、決められた作業を行わせる刑罰

禁錮：刑務所に入れる刑罰

「江戸時代の刑罰を紹介します。」

画像とともに、敲・入墨・追放刑・死刑を紹介する。

「人が罪を犯す理由には、どんなものがあるのでしょうか。」

思いつく子に挙手指名で発表させていく。

【人が罪を犯す理由】

- ①うらみがある。
  - ②楽しい。
  - ③ストレス
  - ④自分のことしか考えていないから。
  - ⑤お金めあて
  - ⑥人の心に悪တဲ့いうのがあるから。
  - ⑦生きていくため。
  - ⑧よくぼう
  - ⑨しつと
  - ⑩自分の利益のため
  - ⑪刑務所での生活の方が良いから。
  - ⑫承認欲求
  - ⑬バレないと思つてやる。
  - ⑭はらがたつ(いかり)。
  - ⑮自分の快樂のため。
  - ⑯万引きは、スリルを楽しみたい。
  - ⑰やられたからやりかえしたい。
  - ⑱いまだに犯人が分からない事件を参考に、それをまねたがるから。
  - ⑲ぎゃくたいを受けていたら、自分も子どもにしてしまう。
  - ⑳人を助けるため。
- 他・自分を守るため。・目立ちたい。・生活環境。・好奇心・ふとよぎってしまう悪魔の

ささやき・上下関係や政治などへの不満  
・(逃げたら) 時効があるから。

「天明三年（一七八三年）七月、浅間山噴火が起ります。火山灰が日本各地に降り注ぎ、そのため、農作物が取れなくなり、天明の大飢饉が起ります。食べる物もお金も失った人々が江戸の町に流れ込みます。その人たちのことを無宿といいます。」

【板書】無宿

「無宿の人たちは、どうしたと思いますか。」

- ・ 仕事を探した。
- ・ 泥棒をした。 など

「無宿の人たちの中から、泥棒や強盗などの罪を犯す人が出てきたのです。」

「その当時、江戸には火付けや盗賊を捕まえる火付盗賊改がいました。その長官に、天明七年（一七八七年）に長谷川平蔵が就任にしました。浅間山噴火が天明三年ですから、その四年後となります。」

長谷川平蔵の言葉を紹介します。

無宿といへるもの盛にして

世にたゆることなし  
長谷川ふかくこのことをなげき

「長谷川平蔵は、無宿の人たちをどうしたと思いますか。」

「思いついたことを数人に発表させた後、長谷川平蔵は、徳川幕府に建白書を出しました。そこには、人足寄場を作る案が載っていたのです。」

人足寄場の地図を見せながら、そこには病院や浴場があり、さらに様々な仕事のやり方を身につけられるようになっていく。大工作業・わら細工・桶作り・精米・紙作りなどを絵とともに紹介。

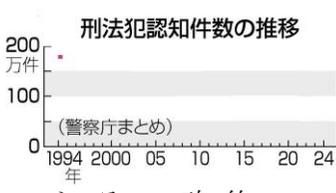
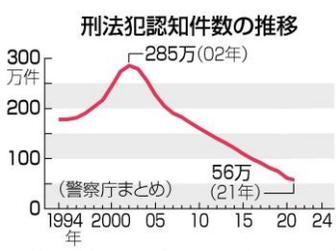
「給料も出ました。2割は経費として引かれ、入所者の報酬は8割。そのうち何割かは出所後のために積立をさせていました。」

【板書】悪党にても人に御座候

「長谷川の言葉です。寛政七年（一七九五）年）平蔵は50歳で生涯を閉じました。」

「警察庁まとめの「刑法犯認知件数の推移」の折れ線グラフを右のように、小出しで紹介していく。」

タイトル、縦軸、横軸の確認をしてから、



書かせてから、発表させる。

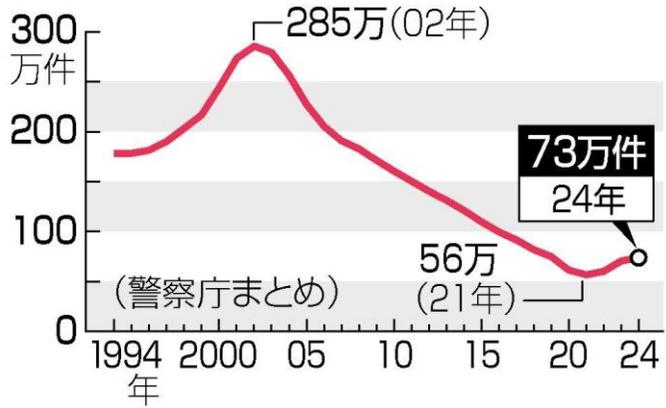
ノートにその対策を

「二〇二四年は二〇二〇年より、増えるでしょうか、減るでしょうか。」  
予想後、73万件に増えたことを示す。  
「犯罪を減らすには、どうすればいいでしょうか。」

「この後、犯罪は増えるでしょうか、減るでしょうか。」  
「〇〇二年には285万件に増えたことを示す。同じように、この後の増減を予想させ、二〇二一年には56万件まで減ったことを示す。」

「一九九四年の犯罪数が約180万であることを確認する。」

## 刑法犯認知件数の推移



その発表後、再犯率が約50%あることを紹介。

再犯させない手立ての必要性を話す。

最後に、日テレNEWS「変わる刑務所」懲役・禁錮に変わり「拘禁刑」を導入「懲らしめ」から「更生」へ(2025.5.31放送)の4分11秒のニュースを1分58秒に編集

したものを流し、「罪と罰について、これからも考えていきたいですね。」  
 と言つて、授業を終える。

六月一日からは、改正刑法の施行により「懲役刑」と「禁錮刑」が廃止され、新たに「拘禁刑」が導入されます。

「拘禁刑」の受刑者には刑務作業の義務がなく、犯罪からの立ち直りを目指す「改善指導」を受けることに重きが置かれることとなります。

こうした改善指導を効果的に行うために、拘禁刑の受刑者は年齢や障害の有無、再犯リスクなどによって24のカテゴリーに分けられ、それぞれの特性に合わせた指導が行われるようになります。

そのうちの1つが障害のある高齢受刑者を対象にした「高齢福祉課程」です。

作業療法士「膝は大丈夫？痛みはない？」

高齢受刑者「はい」

高齢受刑者は身体機能や認知機能の低下などにより、出所後の社会復帰が難しくなることが課題です。これに対応するため、東京の府中刑務所では高齢福祉課程の受刑者に向けたリハビリを行っています。

参加しているのは身体機能などに障害のある高齢

受刑者たちで、平均年齢は70歳以上。

——なぜ窃盗を繰り返すのか  
 高齢受刑者

「身勝手なわがまま、自由が欲しくて金がないから悪いことをしてしまつた」

こちらの男性受刑者は窃盗を繰り返し、今回の服役で九回目です。出所後は、地域貢献の仕事に就くことが目標だといいます。

作業療法士 林さん

「彼らがやった犯罪は決して許されるものではないけれど、一人の人としてしっかりと対応することが重要」

刑務所の中で受刑者の更生を促すことは、社会全体の犯罪の数を減らすことにも繋がります。

日テレNEWSより

「受刑者の更生を促すことは、社会全体の犯罪の数を減らすことにも繋が」というのが、拘禁系導入の最大のねらいなのだろう。

動画を見ると、「こんな人権的な扱いを受けるなら、別に罪を犯して捕まってもたいしたことないな」と思う子も出てくるだろう。拘禁系導入が逆に、再犯率を増やす結果にならないことを願いたい。

6月14日(土)エルおおさかで学力研常任メンバーを対象にした学習会が行われました。三人の先生方からの提案発表があり、久保先生の問題提起、参加者の意見交流という形で会が進められました。

【低学年】岸本 ひとみ先生

「低学年でできること、できない(してはいけない)こと」と

- ① パスワード入力 ひらがな学習が終わったら始める。
  - ② グーグル検索 二学期からキーボードをひらがな入力にする。言葉と言葉の間にスペースを入れることに慣れる。
  - ③ タブレットドリルを使う 冬休みの課題として使う。
  - ④ スクラッチを使った簡単なプログラミング
  - ⑤ 教育評価、アンケートなど
- ① 桃鉄などのアプリを自由に使用させる 学習規律の乱れにつながる。
- ② ローマ字入力 国語の学習を優先すべき。まずはひらがなが書けるようにする。
- ③ タブレットドリルの評価をしない 子どもがどこまでできたのかの確認、難易度調整を放棄する」とは、指導放棄である。
- 【中学年】根無 信行先生
- 「中学年のICTの現状」
- ※中学年としての不安要素※
- ・自分で立式したものを紙に書いて解きすすめる力

を育てる時期なのに、タブレットドリルでは式が表示され、答えを書き込むだけになっている。

・低学年のときに生活科で写真記録ばかりしてきた子どもたちは、理科の植物や昆虫の観察のときに細部までよく見ずに終わってしまう。

・辞書引きをショートカットし、音声検索をする。

・連絡帳を書かなくなると、忘れ物が多くなる。

・視力の低下

※中学年としての活用※

- ・解答や意見の提示が手軽にできる。
- ・ローマ字打ち
- ・音楽付きの「かつとばせ都道府県」
- ・理科の影の動きを観察するには、絵よりも早い。
- ・辞書引きと組み合わせた「コトバト」

これからは「コ」を使わない選択は難しい。学力がつかなくなら使うし、つかないなら使わないといった使う人の意識が大事である。

【高学年】丸小野 聡暢先生

「肯定的に使うための取り組み」

タブレットの活用 ある程度、場面を区切って使う。

教育改革の背景 ソサイエティ5・0 社会のあらゆるところに「コ」が入っている。よき使い手、造り手がいる。

※ICTの効果※

- ① メタ認知
- ② 動きの分析
- ③ 過程の記録・表現 (図工やプレゼンをするときに

④ 使うといい。(児童の実態把握)

久保先生からの問題提起

「初等普通教育段階でのデジタル化は子どもたちの全面発達にとって有害であり、それは初等普通教育の死を意味する」

初等普通教育の死を意味するとは、①子どもの脳が発達しない②大人(教師)の権能がないということ。この問題は阻止できない。

佐藤学氏が言う「タブレットは文房具のようになる」これが間違いなのである。大人にはそうかもしれないが、子どもにとっては奪われるものになる。

自ら学びの道筋をつくる「自由進度学習」は理想であるが、本当にできているのか。一年生からは不可能。理想と現実がかけ離れている。上級国民は公立学校を頼っていない。教育無償化とは、私学に行くことができている子には嬉しいが、貧しい子は通うことすらできない。露骨な差別や選別が生まれる。それをカモフラージュするのに専門家が使われている。彼らが理想教育を述べている。学力格差の拡大は財界の狙いである。

鉛筆とノートで脳を鍛えるのだが、デジタルは子どもにしんどい思いをさせない。そうすると、脳が全面的発達をしない。

学校は特殊なところ。脳を鍛えるところなのでコスパを追究したらいけない。それを親にわからせないダメ。「タブレットがないと勉強できない。」ということを防がなければならない。

一人ひとりに個別最適な支援をしながら全体を底上げしようとするのが学力研。これまで学力研が大切にしてきた視写、聴写など文字を書くこと、つまり「ノート指導」を今後も私たちは推していくべきである。

宮口幸治・神島裕子著 『逆境に克つ力』

親ガチャを乗り越える哲学（小学館新書）の紹介

金井 敬之

### 親ガチャとは何か

親ガチャとは「子どもがどんな親の元に生まれるのかは運任せであり、家庭環境によって人生を左右されることを、カプセルトイのランダム性に例えた言葉」である。SNSなどを通じて情報が得やすくなり、人と比べる機会が増えたのがこの言葉が広がった理由だという。

自分のイメージでは、経済的貧困や虐待やネグレクト、ヤングケアラーなどで子どもが不幸になっている状況だと理解していたが、本書の「親ガチャ」（ハズレ親ガチャ）は、「自分のやりたいことや自分の思いが親の価値観による言動で邪魔され叶えられない状況」と定義している。

したがって、経済的貧困や虐待という状況だけでなく、経済的に恵まれている家庭であっても親ガチャは存在する。例えば、

子どもに無理やり医学部を受験せよと言う親の元で勉強を強要される子もハズレ親ガチャなのである。

また、貧困とは金銭的、物質的に生活に困っている状態を指すだけでなく、ケイパビリティ（自分が思うように何かをしたり何かになったりするための自由）が奪われている状態を指す。

たとえお金があつたとしても、自分の自由が奪われている状態も貧困と定義している。つまり、親ガチャとはどこの家庭でも起こり得る不条理なのである。

### 親ガチャを乗り越える

だれにでもある親ガチャを乗り越えるためには、親の価値観に縛られないで自分の幸福を実現することが重要であるという。

本書では、イソップで有名な「キツネとぶどう」の寓話にたとえて、今は取りたく

ても取れないぶどうを幸福と定義している。また、ぶどう（幸福）がまだ見つけられない人には、ぶどうを見つげるために、文学や芸術、遊びなどから自分の好きなことを見つけようと述べている。

ぶどう（幸福）が今は取れないのなら、人生を長いスパンで見ること、未来を見据えて、今の「利益」に安易に飛びつかないこと、他人と比べて人に嫉妬しないことが重要だという。他人を嫉妬すると、自分を肯定できず幸福になれない。

ケイパビリティとネガティブケイパビリティ  
幸福とは親の価値観に振り回されることなく、自分の人生を自分で切り開くことであり、そのためには自分の「できること」「なれること」を増やすことである。つまり、ケイパビリティを増やすことである。

ケイパビリティには、快適な部屋で安心して眠るという自由もあれば、〇〇になるという達成・成功の自由もある。自分を分析することで、自分にはどんなケイパビリティが必要かということがわかる。

この考え方は、精神科医の樺沢紫苑氏の言う3つの幸福と類似している。樺沢氏の

いう3つの幸福とは、心と身体の健康（セロトニンの幸福）、人とのつながりと愛（オキシトシンの幸福）、お金と成功（ドーパミンの幸福）である。

幸福を長いスパンで見るとするには、将来の夢が今描けなくても、その状態を「悪いこと」として捉えずに、不安で答えの出ない状態に耐えうる力が必要である。それが、ネガティブ・ケイパビリティ（不可解さに性急に結論を与えず、神秘さと不可思議さに身を浸しつつ、宙ぶらりんを耐え抜く力、答えの出ない事態に耐えうる力）という考え方である。

### 自分のぶどう（幸福）の探し方

自分の望むケイパビリティを見つけ、ネガティブ・ケイパビリティを身につけることが幸福になる道筋であるが、自分のぶどう（幸福）を手に入れるために身につけるものは次の5つである。

#### ①「NO」と言える勇氣をもつ

人から嫌でやりたくない要求をされたらNOと言う。人だけではなく、社会からは「常識」という名でいろいろな要求をしてくるが、自分の人生を生きるのは自分であ

る。嫌な理由を雄弁に語る必要もない。アドラー心理学の「嫌われる勇氣」と通じるところがある。

#### ②上手に逃げるすべを身につける

人間関係のしんどさや同調圧力などに上手に対処する。すべてのことに対処する必要はない。正論を述べて闘うことをしなくてもよい。上手に逃げることも必要である。

#### ③がまんする力を身につける

幸せになるには時間がかかる。将来の利益よりも現在の利益を優先しがちなバイアス（思い込みなどで偏った考えをすること）を乗り越え、将来のことを考え我慢することが幸福につながっていく。まさに、ネガティブ・ケイパビリティにつながる考え方である。

#### ④基礎学力と認知機能を伸ばす

物事をよく考え真実を見極める力は、認知機能を高めることと基礎学力をつけることである。認知機能とは、言語理解、注意、記憶、推論・判断など学習するときに必要な力である。自己実現のためには基礎学力は重要である。また、だまされることのないように、物事をよく考えることのできる

力、真実を見極める力も必要である。

#### ⑤自分の「好き」を見つける

元メジャーリーガーのイチローさんは「努力を努力だと思っていない時点で、好きでやっているやつには勝てない」と言う。好きは努力に勝るのである。好きを見つけるには「よく見てよく聞いてよく動くこと」がポイントである。

学力研のメンバーも、教育的力量を高めるために努力をされていると思うが、好きで（楽しくて）学力研の活動をされているのではないかと思う。

#### おわりに

子どもは、親の影響を強く受けるので、親ガチャが現れるのは善し悪しではなくある意味、当然のことである。それを乗り越えることで自分の望むぶどう（幸福）が手に入るのであるが、親の存在が悪いのではない。ガチャがもたらす悪影響や不平等を社会が放置しておくことが問題なのであるという本書の指摘は重要である。新自由主義の自己責任論と親ガチャはつながっているとと思う。子どもたちの生きづらさを親のせいだけにしない社会こそが望ましい。

## 春日井学力研

加藤 英介

### ◎はじめに

春日井学力研は、毎月1回レディヤン春日井という場所で、5時半頃からサークル活動が行われている。山口左知男先生を中心に8名ほどが集まり、近況報告や課題について交流をしている。私と学力研との出会いは9年前である。当時、担当していた5年生の子どもたちとうまくいかず学級のつくりかたや授業のつくりかたについて悩みに悩んでいた。指示を出しても「うるさい」「あっちゃいけ」の暴言は当たり前。授業中にも関わらず、走り回ったり給食を勝手に食べ出したりといわゆる学級崩壊状態であった。この状況を何とかしたいと思いつつも、学校で相談できる先生は少なく、どうしたらよいか分からず八方塞がりであった時に出会ったのが山口先生である。

### ◎初めての例会では…

「学級がうまくいかないんです」と正直に話す山口先生をはじめ、春日井サークルの先生方は「大変だったね」「一人で悩ま

ないでね」と優しく声を掛けてくれた。また「苦しいと思うけれども、子どもたちの行動から背景を考えて指導をしていこう」と親身になって考えてくれた。さらに「できることをまずは増やす」という言葉をいただき百マス計算、漢字音読、かっとなせ都道府県、社会・理科テスト満点大作戦など、今まで取り組んだことのない実践を教えていただいた。特に、百マス計算・絵になる百マスは効果絶大だった。最初の10分程度だけは静かな雰囲気を作ることができた。こんなこと？と思うかもしれないが当時の自分は本当にうれしかった。と同時に学校だけでなく学びを広げなければいけないと思うようになり本格的に学力研で学び始めた。これをきっかけに教師という仕事を今まで以上に楽しめるようになった。

### ◎最近の例会では…

高学年ならではの悩みである「男女のトランプルの指導方法」「1匹狼をどうすればいいのか」「学力差をどのように埋めていけば

よいのか」など互いの実践を持ち寄りながら情報を共有している。また、非常勤という立場での指導や働きやすい環境づくりについても話が広がる。「ICTによる効率化重視の教員問題」は喫緊の課題である。学校によっては、授業支援よりもまずは校務支援としてICT活用を進めていた。事務的な仕事や教員間のデータのやりとり、研修の充実でクラウドサービスを使いこなしているという報告であった。その背景にはICT専門員や業者が手厚くサポートしているということだった。一方、授業では、自由進度学習が流行しているが、理想とは、本質とは程遠いのが現状である。壮大な自習室といっても過言ではない。「タブレットで学べばよくなる」という幻想は捨てなくてはならない。本当の意味で、教師という仕事について考えなければいけない。という熱い議論が繰り広げられた。

おわりに

例会に参加するたびに、新しい知識や技術が手に入る。普段はなかなか相談しづらいことも相談できる。そして、熱量の高いメンバーと一緒に話す中で「よし！来週も頑張ろう！」という気持ちになる。よければ、ぜひ春日井にお越し頂きたい。

# 局長だより 7月

## ◇学力研最新情報 岸本 ひとみ

### ◇夏の全国フォーラムへ

7月に入ると、毎年夏の全国フォーラムの準備の最終段階に入ります。参加者に快適に学んでいただくための部屋の調整、プロジェクト等の機材の確認、お土産用のプリント類の準備と、大忙しです。みなさんが、期末事務が終わって、ほっとされる頃からが、裏方の一番忙しい時期になります。

## ◇各講座＆分科会の打ち合わせ

中でも、一番大切にしていくのが、各学年別講座と分科会の、打ち合わせです。今年、提案者がそれぞれ2人ずつですから、順番・内容・何をさせるか内容に重なりがないように綿密に打ち合わせをします。

## ◇宣伝チラシはありますか？

今年のチラシは、グリーンを基調にしました。もし、お手元になければ、連絡下さい。送付させていただきます。お知り合い、同僚など、ひとりでも多くの方に、お声をかけをお願いします。

**2025 全国フォーラム**  
学力研主催のポスター。8月2日(土) 9:30~受付(南館ホール) 参加費4000円。会場は大阪市中央区北浜東3-14。内容は1年生から6年生までの講座と分科会。講師には宮口幸治氏、橋口佳世氏、加藤英介氏などが参加する。

## ◇事務局だより 岡本 美穂

8月2日(土)

### 学力研 全国フォーラム

記念講演は宮口幸治氏です。(立命館大 コグトレ・著書「ケーキの切れない非行少年たち」他多数)「頑張れない子」をどう導くか(基礎学力と認知機能を伸ばす)

1年 学ぶ楽しさを味わい、みんなが高めあう算数の授業づくり 福嶋 尚 (神奈川)

2年 自分の世界を広げる1年生国語 岸本ひとみ(兵庫)

3年 みんなで伸びる、基礎学力づくり 橋口佳世(大阪)

つまずきを減らす3年算数授業 鈴木基久(静岡)

いく子どもたちへ大切なことは何度でも 小川慶子(愛知)

4年 十歳の壁みんなと学力で乗りこえよう(算数)根無信行(大阪)

5年 みんなで『できた』を増やす学力づくり(国語)李詩愛(大阪)

6年 算数で学力づくり(算数)井川有香子(大阪)

●メルマガのご登録 よろしくお願致します。

「まぐまぐ学力研」

# 学力研カレンダー

《各地のサークル・部会 2025年 7月 例会、イベント》



どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

## 7/

- 19 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp  
25 (金) 春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697  
28 (月) 伊丹学力研 18時半～ ※阪急武庫之荘駅近く 前田 090-9715-3830

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡下さい。

- みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
- いろえんぴつ(加印) 18時半～ なんなん広場会議室 岸本 090-9117-6330
- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830

## 《全国キャラバン等 今後の予定》

- 2025 全国フォーラム 8月2日(土) 会場：エルおおさか  
記念講演 宮口幸浩氏 (立命館大) 『「頑張れない」子をどう導くか』  
～基礎学力と認知機能を伸ばす～  
実践報告 吉田 雅直 『「できる」「わかる」「つながる」でどの子ものばす学力づくりと  
学級づくり』  
分野別講座 低・中・高学年・中高家庭教育

- 1年生講座 第6回 8月23日(土) オンライン

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

いよいよ来月は全国フォーラムです。当日も暑くなると思いますが、暑さに負けない熱い会にすべく準備中です。全国各地の仲間たちと大阪でお会いするのを楽しみにしています。(堀井)

ご意見・ご感想は下記まで

- 荒井 賢一 E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp  
李 詩愛 E-mail iwamotoshie@gmail.com  
堀井 克也 E-mail katsuya4k1h9@gmail.com  
加藤 英介 E-mail hgrtd533@yahoo.co.jp